

「日本山の科学会」ロゴおよび会誌「山の科学」タイトルデザインについて

「日本山の科学会（英名 Japan Society of Mountain Science ; JASMS）」（以下、本会とします）および本会会誌「山の科学（Japanese Journal of Mountain Research）」（以下、会誌とします）に親しみをもってください、本会および会誌が永続的に発展してゆくことを期待して、このたび公式ロゴマークとタイトルのデザインを制定しました。

今回の制定にあたり、2019年1月にデザイン・コンペティションサイト（登竜門, 公募ガイド ONLINE, ログストック）を通じた一般公募を開始しました。約1ヶ月間の募集期間中、本会ロゴに計92点、会誌タイトルデザインに計40点の応募がありました。本会幹事会において二段階にわたる慎重な審査を進め、以下の作品を入賞といたしました。入賞者の高橋正広氏と居関孝男氏には、本会より最優秀賞の賞状と賞金を授与させていただく予定です。

本会のロゴは、ホームページや各種広報物、学術大会時などに活用することとします。また会誌のタイトルは掲載論文の1ページ目に配され、一目で「山の科学（Japanese Journal of Mountain Research）」の論文であることを認識していただけるようにします。

今後とも、本会と会誌の発展のために、皆様のご協力をよろしく願います。

2019年3月

日本山の科学会会長 鈴木啓助

学会ロゴ 高橋正広氏 作



作者コメント：高山から里山へに「人」文字のイメージを重ねた構成にサイエンスの「S」を無限大（記号）の形のように組み合わせることでフィールドワークを通じて限りなく真理に近づくことを表現しました。私自身、信州生まれのため、中高生で燕岳、白馬岳への登山などの経験があり安曇野の春にレンゲ畑の背景にそびえる北アルプスの景観に親しんできましたので今回の採用をたいへん嬉しく名誉に思っております。

会誌タイトルデザイン 居関孝男氏 作

山の科学

Japanese Journal of Mountain Research

作者コメント：この度は、採用の通知を頂きありがとうございました。

作成時は「山」の文字で山を強く印象付け、その縦の三つの直線で「植物・動物・人間」の関わり、渦状の「の」で山の科学を探求する意、下部の英字の「M」を「高山」として描き、直線基調で真摯な科学会を表わしました。

何度か訪れる安曇野。その山で小さく見えたライチョウに感動！！と言ってもかなりの遠望…今はチングルマをこの目で確認したいのですが季節がら不可能な状況です。また、好きな花の一つにカタクリがあります。顔を伏せて咲くきれいな紫色、ここ京都でも確認でき、何度か訪ねています。今年も散策予定です。われわれにとって身近な「山」、その科学的事柄を探求される貴会のタイトルに採用頂き感謝致します。
